

『構造工学論文集』 Vol.68B(建築部門) 投稿要領

一般社団法人 日本建築学会
構 造 委 員 会
構造工学論文集編集小委員会

1. 対象論文

対象論文は、主として建築構造物にかかわるすべての工学技術についての未投稿論文で目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い特色のある施工・調査など、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文を対象とする。なおプログラム編成の参考にするので、下記の部門名の中から適当なものを選択し明記のうえ、投稿されたい。

1. 応用力学・構造解析	2. 外乱・設計荷重	3. 基礎構造・地盤工学
4. 振動・免震・制振	5. 鉄筋コンクリート構造	6. PC構造
7. 鋼構造	8. 木質構造	9. 壁式構造・組積構造
10. シェル・空間構造	11. 合成構造	12. 仮設構造
13. 原子力構造	14. その他（海洋構造、設計理論、安全性、新構・工法など）	

2. 登載料

登載が認められた場合、頁数によらず1編あたり50,000円の登載料を負担する。登載料は構造工学論文集 Vol.68B 原稿送付票の「連絡先」に請求する。なお Vol.68B より、冊子を廃止し、J-STAGE での無料公開を予定している。詳細は後述の「6. 『構造工学論文集』の発行と J-STAGE での無料公開について」を確認のこと。

3. 執筆要領

- (1) 頁数は最大14頁とする。
- (2) 『日本建築学会構造系論文集』の論文作成要領に準拠して作成する。用紙サイズはA4判とする。本文は2段組とし、紙面の割付は、版面:247mm×178mm、本文段幅:86mm、段間:6mm、余白:上20mm・下29mm・左右16mmとする。論文体裁は構造工学論文集編集小委員会 Web ページ (<http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11>) の「体裁見本」にならうこと。
- (3) 論文第1頁には、1行目左上隅に Journal of Structural

Engineering, Vol.68B, April 2022、1行目右上隅に Architectural Institute of Japan、また、2行目左上隅に構造工学論文集 Vol.68B (2022年4月)、2行目右上隅に日本建築学会と記す。

- (4) 表題は強調文字や斜体とせず、和文表記は明朝体を、欧文はローマン体（主題:すべて大文字、副題:文頭文字のみ大文字としほかすべて小文字）を用いる。
- (5) 名前の英文字は名前・姓の順でイタリック体を用い、名前は頭文字のみ大文字でその他は小文字、姓はすべて大文字とする。
- (6) 単位系はSI単位を原則とする。
- (7) 論文の各頁右下に頁番号を記す。
- (8) 既往の研究、関連研究を適切に引用し、研究の位置付けを明確にする。
- (9) 連続した論文を投稿する場合は、各編が独立した内容とする。

4. 提出物、提出先、締切

(1) 提出物

下記の①②を Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF ファイルで作成する。ファイルサイズは、①②を合わせて6MB以下となるように作成する。

①原稿送付票

構造工学論文集編集小委員会 Web ページ (<http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/>) よりダウンロードし、所定の事項を記入したもの。

②論文原稿

3. の執筆要領に従い、ワープロで作成したもの。

(2) 提出先

上記提出物①②を添付ファイルとし、構造工学論文集係宛 (kozokogaku@aij.or.jp) に電子メールにて送付する。件名には「構造工学論文集 Vol.68B 論文投稿」と記載する。

(3) 締切

2021年9月17日(金) 17時まで(厳守)。

5. 登載候補の通知および最終原稿の提出

2021年12月中旬に登載候補の可否をメールで通知する。
登載候補論文の著者は、査読者の意見をもとに原稿を修正

し、所定の締切までに最終原稿を提出する。最終原稿作成期間は1ヶ月程度設ける。

6. 『構造工学論文集』の発行とJ-STAGEでの無料公開について

『構造工学論文集』Vol.68Bは2022年4月上旬にJ-STAGEで発行・無料公開する予定である。冊子の論文集は廃止とする。(なお、J-STAGEへの掲載は申請中。)

7. 第68回構造工学シンポジウムの開催

「第68回構造工学シンポジウム」は2022年4月16日(土)～4月17日(日)に日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34)および東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区大岡山2-12-1)にて開催する予定である。ただし、現地での開催が困難な場合には、オンライン開催とする。論文集に掲載された論文は、原則として筆頭著者がシンポジウムで発表する。シンポジウムのプログラムは構造工学論文集編集小委員会Webページに掲載する。また、シンポジウムにおいて「若手優秀発表賞」を設けて顕彰する。詳細はWebページに掲載する。

8. 構造工学論文集編集小委員会の構成と査読および採択の決定

- (1) 編集小委員会は主査・幹事・委員で構成する。
- (2) 編集小委員会は査読者による審査結果にもとづき『構造工学論文集』への掲載論文としての最終的な採否を決定する。査読判定基準は本会構造系論文集の査読基準に準ずる。
- (3) 査読者選定をはじめ、編集作業の実務は主査・幹事で構成する幹事会で行うこととし、選定した査読者名、査読結果を編集小委員会に報告する。
- (4) 1編の論文に対し、3人の査読者に査読を依頼し、掲載の可否の判定を仰ぐ。査読に際し、査読意見も求める。
- (5) 査読の結果、掲載可が2つ以上の論文を編集小委員会で審議の上、掲載候補論文とし、掲載否が2つ以上の論文を不採択とする。
- (6) 編集小委員会は、完成原稿が査読意見に対して適正に修正されているかを含め、採否を決定する。

9. 過去の構造工学論文集の全文公開について

掲載後1年が経過した論文は、下記の「日本建築学会発表論文等検索システム」にて、電子形態により全文を公開している。

■日本建築学会 Web サイト→アーカイブ検索→本会発表論文等検索システム

<https://www.aij.or.jp/paper/search.html>

10. 構造工学論文集編集小委員会委員

主査	五十田 博 (京都大学)
幹事	吉敷 祥一 (東京工業大学)
〃	高橋 典之 (東北大学)
〃	永野 正行 (東京理科大学)
〃	山川 誠 (東京理科大学)
〃	米田 雅子 (日本学術会議/東京工業大学)
委員	五十嵐規矩夫 (東京工業大学)
〃	川口 健一 (東京大学)
〃	菊地 優 (北海道大学)
〃	楠 浩一 (東京大学)
〃	田村 修次 (東京工業大学)
〃	蜷川 利彦 (九州大学)
〃	森 保宏 (名古屋大学)